

「豊かさを実感できる街づくり」を目指して



成田市長
小泉一成

さらなる飛躍が期待される成田空港

明けましておめでとうございませす。

市民の皆様には、平成23年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

今年は「うさぎ年」です。うさぎは、好奇心が旺盛で感受性の強い動物です。また、後ろ足が長いため、坂を登ることが巧みであることから、「うさぎの上り坂」ということわざがあるように、物事が良い条件で早く進むことの例えに使われます。

重要課題の山積する成田市政におきましても、「うさぎ」にあり、スピードを持って諸施策を展開し、行政サービスのさらなる向上を図ってまいりたいと考えております。

昨年は、「ゆめ半島千葉国体」と「ゆめ半島千葉大会」が開催され、地元成田の選手をはじめとするアスリートたちが、わたしたちに勇気と感動を与えてくれました。市民の心を一つにした光景を目の当たりにし、スポーツの果たす役割がいかに大きいかを、改めて

強く感じたところでございます。

また、役員をはじめ、小・中・高校生や市民ボランティアのご協力により、全国各地の大会関係者を、心の込もったおもてなしで温かく迎えることができました。両大会を支えていただいた皆様に、敬意と感謝を申し上げます次第です。

スピードを持って 諸施策を展開

昨年は、羽田空港の24時間国際空港化がスタートし、「遠い、不便」と言われ続けてきた成田空港は、「成田限界論」などが叫ばれ、将来への不安や危機感が高まっております。

このような中で、昨年の10月に、国、県、空港周辺9市町と成田国際空港株式会社で構成する「成田空港に関する四者協議会」におきまして、成田空港の年間発着枠を30万回まで拡大することについて合意をいたしました。

ここに至るまで、騒音地域の住民の方々を対象とする説明会に足を運び、話し合いを続けてまいり

ました。多くの方々に、容量拡大の必要性について基本的にはご理解が得られたものの、いまだ完全なご理解を得られたとはいえない状況にあります。

しかしながら、羽田の24時間化により、成田の国際基幹空港としての地位が危うくなるという危機感を抱き、時期を失することなく、成田空港の30万回への容量拡大について決断したところであります。現在の成田の発展が、騒音地域の住民の方々の受忍の上に成り立っているということを常に念頭に置き、今後も引き続き、騒音地域の住民の皆様と十分に協議を行いながら、しっかりと騒音対策や地域振興策に取り組んでまいりたいと考えております。

JR成田駅東口の市街地再開発事業は、昨年4月に正式に事業を開始しました。順調に進みますと、3年後の平成26年3月には事業が完了し、新しい駅前が成田の顔として、快適で安全な姿に生まれ変わります。

「豊かさを実感できる街づくり」を目指して、本年も全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。